

平成21年 6月16日現在

研究種目：若手研究（スタートアップ）  
 研究期間：2007～2008  
 課題番号：19820019  
 研究課題名（和文） 中国北方のモンゴル系危機言語の総合的記述と言語変容に関する研究  
 研究課題名（英文） Descriptive study on linguistic change of endangered Mongolic languages in northern China.  
 研究代表者  
 山越 康裕（YAMAKOSHI YASUHIRO）  
 札幌学院大学・人文学部・講師  
 研究者番号：70453248

研究成果の概要：中国北方で使用される、消滅の危機に瀕したモンゴル系言語、シネヘン・ブリヤート語・ハムニガン・モンゴル語を研究対象とした現地調査を実施した。音韻・文法の総合的記述の完成をめざすため、これまでの調査で把握できなかった文法項目に関して重点的に調査した。総合的記述をおこなうことで、当該言語の変化の様態を示すとともに、調査によって得られた一次資料（音声・映像資料）について、汎用性を高めるべく加工することをめざした。

## 交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,320,000		1,320,000
2008年度	1,350,000	405,000	1,755,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,670,000	405,000	3,075,000

研究分野：言語学（記述言語学）

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：危機・少数言語、モンゴル諸語、言語記述、言語変容

## 1. 研究開始当初の背景

代表者がこれまで継続的に調査・研究の対象としてきたモンゴル系言語、シネヘン・ブリヤート語およびハムニガン・モンゴル語は、それぞれモンゴル系のブリヤート、ツングース系のハムニガンと呼ばれる民族集団によって使用される言語である。両言語は、話者の移住に伴う言語変容がおこったが、その詳細については明らかとはなっていなかった。シネヘン・ブリヤート語に関しては中国語の影響を受け、近年大きく変容を遂げつつある

が、世界的にみても研究者がいない。また、ハムニガン・モンゴル語は若干の先行研究が公表されているが、現時点で調査・研究をおこなっている研究者がやはり不在となっている。さらに、両言語は母語話者も次第に減りつつあることから、その変容の度合いをはかるための総合的記述と音声資料の保存が急務とされてきた。

## 2. 研究の目的

上記の背景をうけ、本研究では

- (1)ふたつの言語の総合的記述、
- (2)音声資料の分析と公開、
- (3)言語変容の記述

という2-3点の達成をめざした。

(3)に関しては実質的には研究期間後に記述を進めることをめざし、その前提資料となる(1)、(2)に重点をおいて研究をすすめた。

### (1)総合的記述

これまで詳細な文法記述が公表されていないシネヘン・ブリヤート語、ハムニガン・モンゴル語について、音韻および文法の概要を記述する。

### (2)音声資料の加工と公開

これまでの現地調査によって得られたシネヘン・ブリヤート語およびハムニガン・モンゴル語の一次資料(音声・映像資料)について、他の研究者にも提供できるようなかたちで加工し、オンラインで公開することをめざす。

## 3. 研究の方法

上記(1)(2)についての研究方法は以下のとおりである。

(1)代表者がこれまで蓄積してきた資料にくわえ、研究期間中に現地調査を実施する。それらをもとに総合的な記述をおこなう。総合的記述にあたっては、分析が不十分であったヴォイスおよびモダリティに関する項目を重点的に調査することで、これまでの研究成果を補完し、より充実した詳細な総合的記述を完成させる。

(2)代表者がこれまで紙媒体で発表したテキスト資料のもととなる音声資料について、音声分析ソフト Transcriber および形態分析ソフト SIL Toolbox を用いて分析、文字化をおこなう。こうした技術の共有・補完に関しては、記述言語学に従事する若手研究者によるオンラインコミュニティ Fieldling による協力体制を活用する。完成したテキスト資料を音声資料と合成し、オンライン公開をおこなう。

## 4. 研究成果

上記目的に基づき、研究期間内に合計2回にわたる現地調査を実施し、一定の成果を得ることができた。(1),(2)それぞれに関する研

究成果は以下のとおりである。

### (1)総合的記述に関して

#### ①2007年度

春季に現地調査をおこない、シネヘン・ブリヤート語のあらたな音声資料の収集と文法事項(とくにヴォイス)に関する調査を実施した。同時に、調査資料にもとづいて当該言語の旧来の品詞分類に対する評価と再検討をこころみた。旧来の品詞分類は形態的観点にもとづく客観的基準を有しているが、言語変容によってそぐわない点が見られることを指摘し、むしろ類型的観点に立てばこの分類が有効とは言えず、意味的側面も場合によっては考慮する必要があるとの結論に達した。

ハムニガン・モンゴル語については、総合的記述(音韻・文法の概略)を雑誌論文のかたちで公開した。

#### ②2008年度

夏季に現地調査をおこない、シネヘン・ブリヤート語のあらたな音声資料の収集と文法事項に関する調査を実施した。2008年度も前年度に引き続きヴォイスに関しての聞き取りを継続するとともに、モダリティに関わるクリティック(倚辞)の調査を同時にすすめた。クリティックについては、とくにその定義について代表者がこれまで継続して注目しているが、モダリティに関わるクリティックには旧来の定義から外れる要素も存在することが調査によって明らかとなった。今後、より精査したうえでクリティックをどのように定義すべきか、再検討をおこないたい。

またさらに、前年度検討したシネヘン・ブリヤート語の品詞分類についても、他言語における品詞分類のありかたとの対照を通じた再検討をおこなった。「品詞分類」という、文法記述においてそれほど大きく問題視されることがなかった事項の検討は、実際には不十分な点を多く有しており、かつ他言語との対照をつうじて問題が大きく見出される。この点については他言語の記述研究に従事する国内研究者とともに議論し、その成果を雑誌論文として公表した。

#### ③成果の位置づけとインパクト

ハムニガン・モンゴル語の総合的記述は、

- A. 日本語によって著された初の研究成果である点、
- B. 海外の研究者による伝統的なモンゴル語学に立脚した視点とは異なり、言語類型論的観点に基づいた視点からの記述である点

において、特色あるものとなっている。ただし、Aについては国内のモンゴル系言語研究においては一定の評価が得られるものの、国外の研究者に対するアピールが弱い。今後はこれを英文に改め、公開することをめざしていく。

シネヘン・ブリヤート語については、詳細な総合的記述の公開はかなわなかった。しかし、品詞分類に関する問題について調査結果に基づき雑誌論文として成果を公表することができた。シネヘン・ブリヤート語の品詞分類に関する論文は、他言語を対象とした品詞分類に関わる（他の研究者による）論考とともに公表されている。言語記述において、従来品詞分類は当然あるべきものとしてとらえられてきたが、果たして通言語的な品詞分類基準をたてることが可能かどうかを検討するための一論考として重要な成果であるととらえている。

研究期間中に公表が間に合わなかったシネヘン・ブリヤート語の総合的記述は、今後、英文による公開を予定している。

## (2)音声資料の分析と公開に関して

### ①2007年度

これまでの研究の中で収集したシネヘン・ブリヤート語音声資料のデジタル化・文字化・データベース化を重点的に行った。これらは資料の恒久的保存とアーカイブ構築のための基礎的作業であり、今後の当該言語の記述研究を進めていく上で欠かせないものである。とくにデジタル化・データベース化に関しては、ワークショップでの海外研究者との情報交換によって、汎用性を高めるためのデータベース構築（メタデータの構築法、音声記述ソフト Transcriber による音声資料の文字化、形態分析ソフト Toolbox によるテキスト処理）の技術的知識を得たことで、データを効率よく加工・処理することが可能となった。

### ②2008年度

前年度にデジタル化・文字化・データベース化した研究資料（シネヘン・ブリヤート語一次資料）について、引き続き音声記述ソフト Transcriber および形態分析ソフト SILToolbox を用いて汎用性を高めるべく加工・処理をおこなった。現在、日本語訳に関してはその一部を代表者ホームページにて公開するに至っている。関連して、資料公開について日本国内の他の研究者と連携し、オンラインによる情報共有をおこなうことの重要性を議論し、その成果を国際学会（1st International Conference on Language

Documentation and Conservation）にて発表した。

### ③成果の位置づけとインパクト

当初の計画では音声資料とテキスト資料とを合成した資料のオンライン公開を目指していたが、Unicode への対応が遅れたこともあり、完成した形での年度内の公開はかなわなかった。

ただし、これまで蓄積した一次資料のうちの多くを、現地調査における母語話者からの協力を得ながら、研究期間中に文字化することができた。研究対象言語は国内外ともに研究者がほとんどいない状況にあるため、これらの資料の公開は今後、できるかぎり早急におこなっていききたい。なお、資料の文字化、現地調査の手法に関してはオンラインコミュニティである Fieldling による協力体制が有益となった。

全体を通じて総括すると、(1)に関しては当初の目的をおおよそ達成できたものの、(2)に関しては当初の目的を下回る成果となったといえる。ただし、資料の構築は本来多大な時間と労力を費やす必要があるため、今後も継続的に処理をおこない、逐次公開を目指していく。

そのための準備段階として、本研究期間では技術的知識を獲得することができた。このように資料公開のためのインフラを整備できた点が、(2)におけるもっとも有益な成果といえる。

(1)に関しては、当初の目的をおおむね達成した。シネヘン・ブリヤート語の総合的記述については、研究期間内での公開は間に合わなかったが、すでに来年度中の公開の目途がついている。国外研究者への情報提供として英文での執筆を予定しており、モンゴル系言語の記述研究および言語類型論的研究において一定のインパクトを与えることができるととらえている。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件）

①山越康裕、「品詞分類のありかた：シネヘン・ブリヤート語の事例から」、『アジア・アフリカの言語と言語学』3、pp.47-59、2008年、査読有。

②山越康裕、「ハムニガン・モンゴル語」、中山俊秀・山越康裕編『文法を描く：フィー

ルドワークに基づく諸言語の文法スケッチ』、2、pp.229-258、2007年、査読無.

〔学会発表〕(計 1件)

- ① Yamakoshi, Yasuhiro, Sharing research information and skills on the net: 'Fieldling'community site. 、 1st international Conference on Language Documentation and Conservation.、2009年3月13日、The University of Hawai'i.

〔その他〕

ホームページ (研究課題に関わるサイト)  
<http://ext-web.edu.sgu.ac.jp/yamyas/chosachi.html>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

山越 康裕 (YAMAKOSHI Yasuhiro)  
札幌学院大学・人文学部・講師  
研究者番号：70453248